

第5回 建設候補地選定専門部会 会議録

開催日時：2012年4月27日（金）14時～16時

開催場所：町田市役所 町田リサイクル文化センター 研修室

出席委員：（敬称略）

松波淳也、粕谷羊三、稲木健志、金田剛、高木康夫、佐藤正志、
富岡秀行、大谷公二、高橋倫正

傍聴者：9名

《次第》

開会

1. 第4回専門部会及び第8回検討委員会議事要旨と今後の進め方
2. 候補地選定 二次選定の項目及び結果について
3. 候補地選定 三次選定評価項目(案)
4. 生活環境影響調査及び周辺地域への配慮に関する情報共有（事例紹介等）

閉会

＜配布資料＞

資料1：第4回専門部会及び第8回検討委員会議事要旨と今後の進め方

資料2：候補地選定 二次選定の項目及び結果について

資料3：候補地選定 三次選定評価項目(案)

資料4：生活環境影響調査及び周辺地域への配慮に関する情報共有（事例紹介等）

資料5：参考資料 三次選定の評価項目に関する他市の事例（他市町村との距離に関する考え方の事例等）

＜別添資料＞（前回までに配布）

- ・町田都市計画図
- ・町田市洪水ハザードマップ

第5回 建設候補地選定専門部会議事録要旨

1. 開会

(田後施設建設担当部長)

4月1日付けで環境資源部の組織替えがあった。本委員会の運営を行っていた環境総務課施設計画係が、循環型施設整備課となった。

2. 第4回専門部会及び第8回検討委員会議事要旨と今後の進め方

〔断層について〕

(高橋(倫)委員)

第3回専門部会議事要旨において、三多摩市町村が立川断層について政府に調査を行うよう申し入れをしたとなっている。仮に断層が施設の直下を通過していたような場合、建物の耐震性を確保するという対策だけで大丈夫なのか。過去のデータを精査しておくことも必要ではないか。

(事務局)

引き続き情報収集に努め、現時点で判断できる根拠に基づいて進めていきたいと考えている。

〔市境からの距離について〕

(松波部会長)

二次選定の条件である市境からの距離について、市民から不要なのではないかという意見が挙がった。市境からの距離「100m」の明確な根拠はない。他市では三次選定の段階でこの項目が入っており、候補地から市境まで実際何m離れているのかということを示し、それを評価している。「市境からの距離」が二次選定の条件として妥当か考えなければならない。

(金田委員)

八王子市の生ごみ処理施設は人家から800m離れているため問題ないという説明が八王子市側からあったと、小山地区の意見交換会の際に宗田部長が言及していた。この施設は人家から800m離れているものの、市境からの距離は約6mである。逆の立場になって考えたとき、我々がきちんと説明できるなんらかの基準を考えておく必要があるのではないか。

(宗田部長)

八王子市の生ごみ処理施設は民間施設であり、公共施設ではない。また、民家からの距離が200、300mの場合はしっかり住民に説明するように、という八王子市の指導があったようだ。参考になる面はあるものの、我々の施設の条件とは違う部分がある。

(高橋(倫)委員)

市境に施設を建設する場合には、近隣の市への説明はしなければならない。民家との距離という条件を入れると、町田市内に建設する場合もその条件が必要になるのではないか。

(松波部会長)

資料5の20ページに書かれている調布市・三鷹市の事例では、他市町村との位置関係という項目を設け、候補地がそれぞれ他市と何m離れているかということを示して評価している。二次選定の段階で市境からの距離100mという基準を満たしているかどうかで不適地を除外していくよりも、市境からの距離を第三次選定の評価項目に加える方がよいのではないか。

2. 候補地選定 二次選定の項目及び結果について

〔現有施設がある候補地、市境からの距離について〕

(事務局)

資料2では、一次選定、二次選定の条件に基づいて機械的に候補地を抽出した。現状で施設がある市有地について、このまま三次選定に進むのが妥当か議論していただきたい。

(松波部会長)

今、現状の二次選定項目に従って候補地を図示していただいている。その中で、100mの条件でかかってくるのは成瀬クリーンセンターとごみ処理場(竜谷)であり、候補地に残るかどうかが変わってくる。また、二次選定の項目による現行の候補を見ると、学校や体育館といった候補地をどのように考えるのか意見をいただきたい。

(田後施設建設担当部長)

候補地となっている学校は移転や廃校の予定はないため、候補地から外していただきたい。また事業として位置付けられている施設について、例えば成瀬クリーンセンターは下水処理場としての機能を残さざるを得ず、移設も撤去もできない。このような観点で考えたとき、学校、総合体育館、プール、成瀬クリーンセンター等をこの時点で候補地から外していただきたい。

(松波部会長)

現実にそこに作るのが不可能というところを候補地に残しておいても仕方がないと思う。十分機能している現有施設を移設、撤去することが妥当なのかどうか。また市境の条件は現状では候補地の抽出にそこまで大きな影響はなく、三次選定でより丁寧に議論してもよいのではないかと考える。

(高橋(倫)委員)

鶴見川クリーンセンターはどうか。

(宗田部長)

増設計画は当初より縮小したのものとなっているものの、鶴見川クリーンセンターは都市計画決定された施設であるので、都市計画との整合を考えると除外の対象かと思う。

(大谷委員)

ごみ処理場(竜谷)は多摩市側の道路から入らなければならない。これも除外の対象ではないか。

(田後施設建設担当部長)

ごみ処理場(竜谷)は町田市内にある。しかし入り口は多摩市側にある。現状では施設が建っていないため、二次選定の段階ではまだ除外しなくてもよいのではないかと。三次選定の際に、道路アクセスが評価の対象になる。

(粕谷副部会長)

危険物の製造所を造る際には民家から100m離さなければならないという規定があったはずなので、そこで100mという数字が出てきたのではないかと。

(田後施設建設担当部長)

施設に防火機能や設備があればまた設ける距離が変わったと思う。一概に100mという数字をあてはめるのではなく、候補地ごとに具体的な距離を出していく方がよいのではないかと。客観的に何百mとか候補地の距離を出して、基準を設けてあてはめていく方法の方がいいのではないかと。

(稲木委員)

ここまでくるとだいぶ絞られてきたので、議論を進めていく上で、建設できないところは印を付けたので、候補地選定部会として絞られたところだけもう一度調査をして議論を進めていってはどうか。

【リレーセンターみなみと市役所跡地について】

(田後施設建設担当部長)

提案であるが、資源ごみ処理施設のことだが、資料2の4ページ、「最低限必要な面積7500m²を確保

できる市有地」とあるが、整備基本計画部会では、分散方法については結論が出ていないので、7500m²以下の面積のところでも、候補地として載せていく必要があるのではないかと考えている。面積7500m²で設定していると、たとえばプラスチック資源化施設だけを分散するとしたら、候補地として選んでいないエリアも、後で議論できたことになるので、入れておきたい。皆さんに視察いただいたリレーセンターみなみはごみの中継基地として使っており、既存の施設内に利用可能なスペースがある。面積7500m²以上という条件は満たさないものの、候補地の一つとして検討対象に加えてほしい。このような候補地が他にあるかどうかは、精査していく。

プラスチックの圧縮梱包施設だけであれば、2800m²あれば機能する。面積3000m²以上あれば候補地としての選択肢はあると思う。

(松波部会長)

現行でも活用可能な施設があるので、候補地に入れてほしいという市からの提案である。

(高橋(倫)委員)

今回、市有地で候補地が出てきたわけが、市役所跡地は活用できないのか。意見交換会でもそのような声があった。

(田後施設建設担当部長)

リレーセンターみなみは、二次選定結果の地図において、着色されたエリア内にある。市役所跡地は着色されていないエリア、すなわちすでに候補地から除外されたエリア内にある。現段階で市役所跡地を候補地として挙げてしまうと、客観性に基づいた選定のプロセスが振り出しに戻ってしまう。現在は、着色されたエリアの中で面積3000m²以上という解釈を進めていきたい。

(宗田部長)

議会で特別委員会を作り、市役所跡地についての活用方針を市として既に出している。市役所跡地を候補地に挙げるのは難しい。

(松波部会長)

二次選定結果の地図の着色されたエリア内において、用地取得の可能性が高い場所として市有地を取り上げている。

(高橋(倫)委員)

リレーセンターみなみは既に施設が入っていて稼動しているという意味では、ほかのエリアとは違うと思う。

〔民有地について〕

(事務局)

資料2の1ページ目の記述で「民有地その他の土地に関する検討が未反映である。」となっているが、民有地等は候補地に含まず、市有地を基本に考えていくこととなった。訂正をお願いしたい。

(松波部会長)

もし用地取得の可能性が高く、スケジュールに間に合うような民有地があれば、挙げていただきたい。事務局として民有地の案はあるか。

(田後部長)

着色されたエリア内において、民有地でスケジュール的な面はわからないが、可能性はゼロではなく検討できる範囲とは思っている。「このエリアの、このエリア」と明確になっていればお話しできるが、現時点ではまだそういう部分はない。

(稲木委員)

市有地があるのにわざわざお金を出して民有地を購入するというのは、どうかと思う。市有地が無いなら別だが。

(田後施設建設担当部長)

おっしゃる通りだと思う。もし適した民有地があれば部会にご提案させていただくが、現状は市有地優先で考えていきたい。

(松波部会長)

今回、示されている二次選定結果として候補地が挙がっているが、現有施設があるところは除外する件、市境から100mを除外する件、これらをご確認いただき、反映させた内容を確定した二次選定結果とし、5月20日の委員会に報告したい。それから、今回、提案されたリレーセンターみなみを含めて、三次選定の評価対象区域として、さらに続く三次選定評価項目を変えていく形で進めていきたいが、いかがか。

(佐藤委員)

最低必要面積が28000m²だということは、整備部会で確認したということによいか。

(田後施設建設担当部長)

その面積は、熱回収施設、不燃粗大・破碎設備、バイオガス化施設の建築面積および緩衝地帯をいれると、28000m²である。

【議論の結果】

(事務局)

議論の結果を整理する。残った候補地は、資料2、4ページの以下のものである。

- (1) 北部丘陵整備事業用地(a)サイト
- (3) 町田リサイクル文化センター
- (4) 小山上沼公園
- (8) 北部丘陵整備事業用地(b)サイト
- (9) 北部丘陵整備事業用地(c)サイト
- (10) 鎌倉街道小野路宿緑地
- (11) 清掃第二事業場(ビン・カン)
- (13) 野津田公園隣接緑地
- (15) 函師緑地
- (16) 小野路小谷北緑地

「市境からの距離」という条件を二次選定条件から三次選定の評価項目に移行する。それに伴い、ごみ処理場(竜谷)が候補地に追加される。そしてリレーセンターみなみを候補地に追加する。これによろしいかご確認いただきたい。

(松波部会長)

「市境からの距離」を二次選定の条件から外し、三次選定にて評価することを確認した。5月20日の委員会にて、本検討結果を反映したものを提示することとする。

3. 候補地選定 三次選定評価項目(案)

(事務局)

項目の配点の方向性について議論していただきたい。

(松波部会長)

「市境からの距離」を三次選定の評価項目に加えていただきたい。

主観が入り込む余地をなくすため、評価項目の重み付けをあえてしないという他市の事例があり、そのような方法も考えられる。そうすると項目の数によって評価が変わってしまうことが問題となる。色々と意見をいただきたい。

(松波部会長)

現行で市有地を対象としているため、用地取得費はゼロになるのではないかと。

(事務局)

確かに、用地取得費という項目は不要となる。

(松波部会長)

一度この項目で評価していただき、その上で議論をしていただいた方が有益だと思われる。この項目で進めてよろしいか。配点については各自持ち帰って検討いただき、後日議論したい。配点の仕方については、点数を入れた結果の雛形があれば議論がしやすいと思う。

(田後施設建設担当部長)

次回の部会の開催は6月上旬となっているが、三次選定について議論する場が意見交換会前に1回だけではどうか。5月の下旬に部会を開いて、配点をご議論いただき、6月にもう一度検討いただいて意見交換会に臨む、もしくは検討委員会を開催し方向性を出し、意見交換会に臨むというスケジュールをご提案したい。

(富岡委員)

候補地の現場を見に行った方が評価をしやすいのではないかと。

(松波部会長)

評価項目に基づいて順位付けをし、その段階で上位を見に行くのが妥当なのではないかと。

(松波部会長)

三次評価項目案を確定し、ウェイト付けを5月に実施し、6月までに決定するという方向で進めていくことでよろしいか。

(委員、同意)

4. 生活環境影響調査及び周辺地域への配慮に関する情報共有（事例紹介等）

(田後施設建設担当部長)

スケジュールについて、2013年度、2014年度に設計、2014年度後半から2016年度にかけて環境影響評価を考えている。2020年度を稼働年度と想定している。

5. 事務連絡

5月17日 13:30～ バイオガス化施設勉強会 町田リサイクル文化センター研修室
質問事項がある委員は5月8日までに事務局に提出
(委員の勉強会のため傍聴不可)

5月20日 13:00～15:00 第9回検討委員会 森野分庁舎4階会議室
15:30～ 第7回整備基本計画専門部会 森野分庁舎4階会議室

5月25日 15:00～ 第6回建設候補地選定専門部会 町田リサイクル文化センター研修室

6. 閉会